随想

現代に憶う

加藤宗活

近来よく「禅」という語を聞く、真に結構なことではある。しかし禅を知ったかぶりに口にする人たちが、ともすれば人道無視の生活行為をして、それが禅を行持する者であるかのごとく誤解しているように見えることは残念である。禅は単なる思想ではない筈である。何故かならば、われらが禅を口にするより以前に、少なくともわれらが禅を知る以前に、そこには厳然たる伝統があり、先覚者の懸命な躰究練行が繰返されてわれらの身辺にまで伝承されて来た尊い事実がある。これをもし無視して、ただ一篇の言説、談論の一端のみを耳にして、それでわれ禅を得たり、などと説く人有りとすれば、それは甚しい短見で禅を冒瀆する者である。禅思想としての見方が必ずしも出来ないことではないが、禅なる思想として存在する間は、人間社会にとって大した実存を意味するものではないだろう。禅が禅者として生活者の人格的立場をもった時に始めて、禅は宗教の一宗、一派として活動を起し、社会に貢献するものとなる。

禅が禅者としての人格的発露を現出するというのは、いかな時所においてであろうか？

一滴の水滴！　それは極微ではある。しかしこの一滴は人生にとって何等の意味も、価値もない存在、または事実でもない筈である。われらの先徳は一滴の水の故に全生命を抛出して、その真意義を徹見したのだ。

天然自然に生命が流出するのは何故か？

学徒の理窟あっての実在ではない。

ただ無限者の大愛の発露するのを、人間個躰において実感するばかりである。母なる大地を人間自己の心奥に躰得した者にして、始めて禅は禅者として人格化される。

一木一草何一物も、大地の母胎なくしては生命的実存を遂げ得ない。私の最も敬慕する先徳の語に、「朝には天長地久の曲を奏し、暮には万民舞楽の歌を詠ふ。吾が這裡別事なし」と、これこそが禅者の日常なのだ。

現代ほど平和！ということが世間に論議されている時代は稀である。この平和を論議する世間の政治家連中が、どうして平和問題を論ずる以前に、己が内なる心の平和問題を究明してくれないものか。彼ら現代世界一流の政治家連が、各自の内なる平和問題を究明躰得する努力を重ねてくれるなら、必ずや自己心霊の大地のいかばかり大にして清純無垢であるかに想到し、やがては世界の外交界の実態も一新されようもの

を、と、残念でならない。

物いわぬこの大地！　これこそはわれらが心の基礎、禅者の立つ生活の基盤なのだ。

心地無相と呼び慣わされているが、われらの心には決定した定木はない。だからといって「〇」ではない。人生活動の基礎を知る秘鍵は、各自が躰究覚悟する以外に道はない。

物いわぬ各自の本心を、人間真実のわが主裁者と覚悟しない人たちが現代を導くのだから、危険は随所に散在している。いたずらに犠牲者の遺骸を並べて来日を待つ外ない。噫！

（昭2大神卒、福山・臨済宗鞆光寺主管者）

日本の出版界

長谷川映太郎

書籍の発行点数だけを比較するならば第一位はソ連、次がアメリカ、つづいてイギリス、ドイツ、日本の順になる。ソ連の場合は四八頁以上のパンフレットまで含めての発行点数であるからこれは別として、名実ともに活潑なのはアメリカである。

最近のニューズウィーク誌（六六年十二月十六日号）によれば、アメリカの六六年度の書籍総発行部数は、小学生の使う教科書までを含めて二十五億冊といわれている。日本の同じ年の発行部数は三億四千万冊。これには検定の教科書は含まれていないので、それを加えて比較すれば、アメリカは日本の六倍強となる。日本とアメリカの生活水準は一対一〇といわれており、人口は日本の二倍近くあるうえに、英語の国際的な普及度と日本語書籍の条件などを考えあわせると、この数字はまずまずであろう。

日本では百二十万冊売れればベストセラーの最高になるが、アメリカでは三百万冊ぐらいのベストセラーはざらである。日本で最近邦訳書が出たスポックの育児書は千八百万冊を売り、ペーパーバックスで発行されているガードナーのミステリーは一億五千万冊を売っている。このような天文学的数字が現われ出したのはアメリカでも一九五二年以後の傾向で、書籍の販売機構変革と、ペーパーバックスの爆発的な普及の結果といわれている。

日本ではまだ書籍は書店の店頭売りが主力となっているが、アメリカでは郵便で直接読者に配達されたり、ペーパーバックの普及以来は書店ではない食料品店の店先や飲食店の店頭で新聞同様に売られている。

日本の出版界でも雑誌部門では「週刊新潮」が皮切りとなって週刊誌ブームの洗礼を受けて大きく変ってきているが、書籍部門ではアメリカのような大きな変革はまだうけていない。やがてはアメリカと同様な方向をたどるものと思われるので、そうなれば書籍の普及率が今より五〇パーセントは上るものと思われる。その暁には、わが国の産業界が誇る造船世界第一位、自動車生産台数世界第三位などとならんで、文化面の尺度といわれている出版界も、アメリカに次ぐことになる。

昨年の五月末、ユネスコのアジア地域出版部門の国際会議が東京で開かれた。私はたまたま書籍協会の国際委員会に属していた関係で、アジア地域二十二ヵ国から集っ

た人たちの接待にあたったが、これらの人たちが日本という国を私たちが考えている以上に高く評価して、深く尊敬してくれていることは意外であった。海外からはいつも教えられることばかりであった日本が、いつの間にか指導的な立場に置かれているのだった。

これらアジア諸国の人たちが、私たちの一挙一動をつねにお手本のように見つめているのだと思うとき、日本の出版界も、わが身のことばかりにあくせくしてはいられない時が来ている。これからは、新興国のめんどうを見ながら進んでいくという大きな責任を、どう果していくかということが、新しい課題となってきている。

（昭3中卒・鎌倉書房社長）

『われ死を恐れず』

美浦三郎

私は旅行が好きである。昨年夏は家内と両人で二週間（チトセ・イタミ日航）山陰温泉めぐりをした。昭和四十年夏は四十日欧米教育視察に同志社商業学校長志賀英雄君を含む全国私立高・学校長・教諭・大学教授連六八名（女性十一名）の団長の一人として四万キロをまわり、昭和三十九年にはカナダ・米国を三十日間四十名の教育視察団の一員として三万キロをまわって来た。終戦直後は四ヵ年にわたり駐留軍北海道軍政本部教育課あるいは厚生課顧問として七十八日も米国将校と道内を隅々まで出張して歩いた。

さて昨年秋の松山空港の飛行機事故の際同僚の一人から「貴男のように方々旅行していると危い目にも逢ったでしょうネ」といわれたが、正にその通り、若い頃からいろいろ事故に逢ったが、「私は死を恐れない」「たとい私は死の陰の谷を歩むとも災を恐れません」と詩篇二三―四に教えられているではないか、大正十一年イースター洛陽教会での受洗以来四十年間、私は「生命を大事にするが、死を恐れない。」

列車の正面衝突に乗合せた話―昭和十五年二月二十二日朝六時三十分、猛吹雪の中を朝鮮東岸会寧を出て北へ邁進中の急行の最後尾の寝台車で、トイレに入り、朝の義務を果すべく坐った瞬間、ドシーンと下の床の鉄板に腰をイヤッというほど叩きつけられた。逆方向から南下中の貨物列車が、手前の駅の待避線で停車し、こちらの急行を通過させるべきを、誤って進んで来る。急行運転士が気がつき、ブレーキをかけたが惰性でなお進む。貨物は逆行に移ったが時既に遅く、正面衝突する。脱線した車輛のスチームパイプが爆発して大焼傷者を数名出したが、私は腰にヒビが入った。生憎それが大正十四年五月深草練兵場で障害物乗越えの際落馬しシタタカ腰を打ったその箇所で、四十年後の今日でも時々痛みを覚える始末。

帝国陸軍機不時着に乗合せた話―昭和十六年八月大洪水後の天津・北京を経て蒙疆包頭（パウトウ）まで部隊慰問に出かけたはよいが、出発前仁川での海水浴中海月（クラゲ）に右脛を刺されたのが猛暑を冒して旅を強行した結果、腫れ上って遂に歩けなくなり、八名の同行者に独りだけ残され、カルガン（張家口）で

中国ドクトルの手術を受け、ようやく軍用機に乗せられたのはよかったが、離陸四十秒、突如高粱畑に不時着した。英国将校一名を含む軍人たち七名と共に生きた心地もしなかったが二時間ほどかかってエンジンを修理した後、どうやら北京南苑へ戻ったのであった。

米潜水艇に追いかけられた話—昭和十八年七月陸軍司政官に任ぜられ、昭南（シンガポール）に向う当時の最優秀船三池丸でフィリピン沖にかかった際、米潜水艇に襲われた。二十ノット出した三池丸は難を遁れたが、船団の一隻は遂に撃沈され、他の一隻は船体の一部、殊にエンジンをやられ、共にマニラに寄港したのであった。

共産匪に毒を盛られた話—日本軍政下のジョホール州師範に学校長として在職中、昭和十九年三月のある朝ジョホール水道を見降ろす官舎の広い裏庭の芝生に出て朝食を摂る前、讃美歌をうたったりしていた時、隣りの水産課長から電話で「配給のみそ汁飲むな」とのこと。幸いにまだ箸もつけず、点検したところ、なるほど白い粉が浮いていた。政庁日本人職員へ配給の食事に共産匪の一味がまぎれ込んで、猛烈な下痢を起させ、悪くすると命を落すこともあり得る毒物だったとのこと。

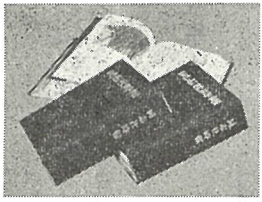
イギリス機低空射撃を受けた話—昭和二十年五月のある朝十時マレイのペナン州師範校庭で国旗を掲揚し、皇居遙拝の最中艦載機の集中射撃を受け、二百名たらずの教官学生（マレイ人・インド人・華僑）は右往左往、壕に校舎に逃げ込み、悲惨にも壕もろとも爆死した者も出た。学校長たる私は壇上で軍服を身に着け長い刀を帯び、悠々自若「ガッコーチョウ・ニゲマショウ」という声にも耳を藉さずかえって助かったのであった。

「私は死を恐れない」が生命は大事にする。天に召されるその日までONE PURPOSE DOSIHSHAに向って生き抜こうではないか。

（昭2大英卒・札幌北星学園互助会長）

本を傷つけず　ノリ付も不要で　合本製本できる

「同志社時報」合本ファイル



お申込みは
京都市上京区今出川通烏丸東入
同志社時報編集部
定価 100円 ＜送料50円＞